


# SHOW HEY シネマルーム



 Data
監督: 佐藤純彌
出演: 大沢たかお / 北大路欣也 / 伊武雅刀 / 長谷川京子 / 生瀬勝久 / 柄本明 / 西村雅彦 / 渡辺裕之 / 永澤俊矢 / 本田博太郎 / 池内博之

## 👁️👁️ みどころ

1853年の黒船騒動から1868年の明治維新政府成立までの幕末維新モノで、意外に知られていないのが、1860年3月3日に起きた桜田門外の変。その原因は、尊皇攘夷派 = 水戸藩VS開国派 = 井伊直弼大老の対立だから、その論点整理をしっかりと。

他方、坂本龍馬は誰でも知っているが、現場指揮官だった関鉄之介はほとんど無名。天下国家のためと信じて実行した暗殺は間違いだったの？本作からは、そんな鉄之介の心の叫びと生きざまをしっかりと受けとめ、かつ学びたい。

\* \* \* \* \*

## 切り取り方が難しい！

「桜田門外の変」は1860(安政7)年3月3日に起きた歴史上の事実。すなわち、水戸藩士17名と薩摩藩士1名が桜田門外で時の大老・井伊直弼を襲い暗殺した事件で、明治政府が成立した1868年の8年前のことだ。その歴史的事実を映画化するについては、切り取り方が難しい。

吉村昭の同名小説を原作とした本作は、水戸藩士・関鉄之介(大沢たかお)に焦点をあて、襲撃決行前と決行後の彼の動きを追っていく。すなわち、私の大好きな『敦煌』(88年)の監督であり、05年には『男たちの大和/YAMATO』によって近時珍しく戦争映画を大ヒットさせた佐藤純彌監督は、桜田門外の変をニュース番組のように客観的に伝えるのではなく、本作を天下国家のために立ち上がり、目的を達成したにもかかわらず、逃亡生活を余儀なくされた関の人間ドラマとしたわけだ。

三池崇史監督の『十三人の刺客』(10年)は、ラスト50分間の死闘がハイライトだっ

だが、本作最大のハイライトたる襲撃シーンは予想以上に早い段階で登場。しかし、ここでハイライトを見せてしまったら、後のドラマをどのように展開させて観客の目を引きつけるの？さあ、そこらあたりの成否は？

## 最初の論点整理をしっかりと！

私見では、現在放映中のNHK大河ドラマ『龍馬伝』は最近、龍馬が秘かに土佐に戻り、岩崎弥太郎の手引きで牢獄にいる武市半平太と密会するなど、歴史上の事実から逸脱した傾向と娯楽作への傾向が強まっている。他方、現在進行中の龍馬と中岡慎太郎による薩長同盟の企みや、薩摩藩とグラバー商会を通じた武器買い付けの話、そしてそれを仲介した亀山社中の話などはレッキとした事実。本作にも、浦賀沖に来航したペリーの黒船艦隊を見て驚く鉄之介の姿が登場するが、『龍馬伝』でも、龍馬が驚く全く同じシーンが登場した。これを見て、「日本を何とかしなければ」と思う気持を強くしたのは、鉄之介も龍馬も同じだったわけだ。

『龍馬伝』では論点がたくさん出てくるが、1853（嘉永6）年の黒船騒動から1860（安政7）年の桜田門外の変に至るまでの本作の論点はシンプル。つまり、尊皇攘夷思想で開国に反対する水戸藩主・徳川斉昭（北大路欣也）と、鎖国という国法を破っても開国を断行しようとする井伊直弼（伊武雅刀）との対立だ。1858（安政5）年に大老に就任した井伊直弼は、朝廷の勅許が下りないまま日米修好通商条約に調印するとともに、かねてから争いのあった將軍継嗣問題では、徳川斉昭や篤姫の義父、薩摩藩主・島津久光らが推す一橋慶喜ではなく、徳川慶福に一方的に決定。さらに、斉昭を江戸城不時登城として謹慎処分にするるとともに、いわゆる安政の大獄を実施した。これによって大きな痛手を受けた水戸藩の先進的グループが、「井伊討つべし」との決意を固め、水戸藩を脱藩の上、桜田門外の変に及んだわけだ。まず最初に、ここまでの論点整理をしっかりと！

## 暗殺実行後の論点整理は？

映画は現場指揮官に任命された鉄之介の生きざまに焦点を当てるが、井伊直弼暗殺計画の立案者は、もっと年長者の高橋多一郎（生瀬勝久）金子孫二郎（柄本明）と野村常之介（西村雅彦）の3人。ここで大切なことは、井伊直弼暗殺計画は、西郷吉之助（隆盛）（永澤俊矢）率いる薩摩藩兵3000人の上洛とセットにされていたこと。つまり、井伊直弼の暗殺は京都を警護する3000人の武装部隊をバックに、尊皇攘夷派の公家たちが尊皇攘夷派の諸藩とともに、新しい国作りをスタートさせるための手段だったわけだ。

『龍馬伝』が描いたように、武市半平太による土佐勤王党の上洛は当初大成功だったが、その後の山内容堂の動きは？それと同じように、井伊直弼暗殺に成功し生き残った桜田十八烈士たちに対する徳川斉昭の対応は？

計画立案者たちは「よくやった」と誉めてもらうことまでは期待していなかっただろう

が、まさか全国指名手配されることになるうとは。そしてまた、あれほど固く約束した薩摩藩兵3000名の上洛が中止になるうとは。本作は、報道番組的な要素もあるから、それはそれで便利。それによると、桜田十八烈士のうち明治維新後生き残ったのはたった2人だけらしい。そんな事実を踏まえながら、なぜ鉄之介に焦点を当てた映画が成立するのかを考え、その後の展開についてもしっかり論点整理を。



(C) 2010 「桜田門外ノ変」製作委員会

## 大モテのalanの曲は？ハセキョーの気持は？

2時間17分という本作の字幕が流れる中、聞こえてくるのは女性ヴォーカルによるバラード曲。どこかで聞いた声だと思いながら歌詞を一生懸命追いかけたが、結局誰の声か思い出せなかった。すると、字幕のラストにalanの字が。大ヒットした『レッドクリフ』の「全世界主題歌」を歌ったことで一躍世界的なアーティストになったalanは、その後、『BALLAD バラッド 名もなき恋のうた』（09年）と『必死剣鳥刺し』（10年）で主題歌を歌っているが、1932年生まれ佐藤純彌監督がこんな歴史大作に若い中国人アーティストのalanを起用するとは、『男たちの大和/YAMATO』の主題歌として長渕剛が歌った『CLOSE YOUR EYES』は大ヒットしたが、さてalanのこの曲は？

もう1つ取り上げたいのは、この『悲しみは雪に眠る』という曲の作詞が伊勢正三だと

いうこと。伊勢正三といえば『なごり雪』が有名だが、かつてのフォークの大家も今や忘れ去られたミュージシャン。ではなく、こんなところで活躍していたわけだ。しかして、伊勢正三が書いた歌詞は、大きな時代のうねりの中で帰って来ないあなたを待つ、切ない女心を歌ったもの。出番こそ少ないものの、逆境の中で一人息子を育てながらたくましく生きる鉄之介の妻・ふさをハセキョーこと長谷川京子がうまく演じている。そんなハセキョーは私生活ではポルノグラフィティのギタリスト・新藤晴一との間の子供を出産したところで、幸せな新婚生活の真っ只中だから、この演技は難しかったのでは？

## 二匹目のどじょうは？

2006年7月に出版した『シネマルーム9』の表紙を飾るのは、戦艦大和の副砲と高射砲の前に立つ私の勇姿。と言ってももちろんそれはホンモノではなく、2005年11月23、24日、尾道に『男たちの大和/YAMATO』のロケセットを見学した時の写真。6億円かけて作った実寸大のロケセットは大和の艦首部分だけだったが、それでも相当な迫力で50億円の興行収入を挙げるのに大いに役立ったはず。『男たちの大和/YAMATO』では、高射砲での死闘を含めて大和艦上での撮影がたくさん行われたから、大和のロケセットは大きな意味があったが、本作では桜田門はその外観を見せるだけ。だからホントはオープンセットを作るほどの必然性はないと思うが、これは話題作りには最適。

そんな成功体験に味をしめたのか、本作では2.5億円をかけて桜田門や襲撃現場付近等々のオープンロケセットを作ったらしい。映画冒頭とラストに登場する桜田門はその前を車が行き交う現在のものだが、前半のハイライトとして雪が降りしきる中死闘をくり広げるのは、ロケセットの桜田門の前。また、ラストに西郷吉之助(隆盛)率いる官軍が入城していくのも、ロケセットの桜田門だ。水戸市千波湖畔のふれあい広場・さくら広場に作られたこのオープンロケセットと記念展示館は2011年3月31日まで公開されるから、機会があれば是非見学したい。

さて、2.5億円をかけて作ったこのオープンロケセットを活用した本作の成否は？二匹目のどじょうがいるといいのだが・・・。

2010(平成22)年8月13日記

## 表紙撮影の舞台裏(14) 裏表紙は？

1) シネマ25の表表紙の写真2枚が2010年3月15日に撮った威海にある定遠艦景区のものなら、裏表紙の写真2枚は3月17日に青島で撮ったもの。威海から南へ車で約2時間、山東半島南部にある人口約750万人の都市青島は中国人が1、2を争って住みたいと願う美しい都市だ。映画『CEO』(04年)で描かれ、08年時点で冷蔵庫と洗濯機のブランドマーケットシェアが世界第1位に急成長したハイアールは1984年に青島で設立された企業だが、日本人にはそれ以上に青島ビールが有名。青島は1898年にドイツの租界とされたため、ドイツ風の市街地が形成された。ドイツと言えばビール。青島には1903年にドイツ資本のビール工場がつけられたが、その味は1906年のミュンヘンの博覧会で金賞を獲得するほどだったらしい。裏表紙の写真1枚はそんな青島ビールの入ったピッチャーを右手に、はしゃいでいる私の写真だ。

2) 八大関、花石楼、公主楼、小青島、海底世界、迎賓館、旧総督府、青島電視觀光塔、青島駅などの青島名所を観光している最中にタクシーの運転手から夕食のために教えてもらったのが、安くておいしい海鮮料理の店が並ぶ海鮮一条街。青島の実験料理店はすべて客が自分で魚や貝などの素材を選んで注文し、それをすぐに料理してもらうという方式。私たちが選んだカニ、ほたて、えび、ウ

ニなどの素材は即座に料理されてテーブルへ。私が左手に持つえびはさっきまで生け簀の中で泳いでいたものだから、そりゃ新鮮！これら文字どおりの海鮮料理が新鮮な青島ビールとともに次々とお腹の中に。2人でたらふく食って飲んで代金は400円(約6000円)だから、バカ安だ。

3) 他方、近時中国の軍事力増強と海洋進出は心配の種だが、青島には海軍博物館がある。50円の入場料を払って中へ入ると、そこにはホンモノの駆逐艦や潜水艦が。ビックリするのは、潜水艦の外部だけではなく、内部をくまなく見学できること。私の背後に写る潜水艦は中国海軍の237艇。これは1977年に就役し、1998年に退役して海軍博物館に展示されているもので、全長76m、幅6.7m、深さ300mまで潜れる優れモノらしい。潜水艦モノの名作映画は『眼下の敵』(57年)、『U・ボート』(81年)、『K-19』(02年)、『ローレイ』(05年)など数多いが、この艦内の狭さは想像以上。機関室や魚雷発射管装置などに場所をとられるため、潜望鏡のある指揮室も狭く、乗組員たちの居住空間は極端に狭い。中国旅行を重ねる日本人は多いが、潜水艦特有の狭い出入口であるハッチから上り下りして、その艦内をくまなく見学した日本人は私くらい？

2010(平成22)年10月28日記